第 1 回中間留学報告

提出日：令和 8 年 11 月 6 日(水)
氏名：稲田 正則
派遣ホストクラブ：広島北 RC
カウンセラー：高見 仁様
受入ホストクラブ：ワーゲニンゲン RC
カウンセラー：Ronald Oosterhuis 様
ワーゲニンゲン大学 持続可能性経済学 修士課程 1 年

1. 渡航から学期開始まで

8 月 5 日に関西国際空港から出発し、8 月 6 日にオランダのスキポール空港に到着しました。ワーゲニンゲン大学があるワーゲニンゲン市は、空港から電車で 1 時間半ほどかかる場所にあるため、到着後の移動が本来大変なはずなのですが、幸いにもワーゲニンゲン RC のカウンセラーの Ronald さんが車でお迎えに来てくださいました。さらに到着後は、街の中心地を案内してくださっただけでなく、ちょうど同日に開催予定だったワーゲニンゲン RC の夕食会にも招待してくださり、初日からホストクラブの皆様に厚く歓迎していただきました。



空港まで迎えに来てくださったカウンセラーのロナルドさんとその奥様

ワーゲニンゲン市は自然豊かで非常に落ち着いた街という印象です。街の中心地は様々なお店やレストランで賑わっていますが、一歩外れると広大な草原と農地が広がっています。個人的に、学生が勉強をするのに非常に適した環境だと感じます。なぜなら、街の雰囲気が穏やかな分勉強にも集中しやすいうえ、自然との触れ合いを通して勉強による疲れを癒すこともできるからです。また、自然との距離が近い分、この街に住んでい

る人々は自然に対する愛や環境意識が非常に高く、心身ともに豊かな生活を送っている印象です。渡航直後でしたが、このような学習と生活の両面で豊かな環境に長期間を身を置くことは、私の人生にとって非常に貴重な機会であると確信しました。





自然豊かなワーゲニンゲン大学のキャンパス（左）と中心地にある教会（右）

渡航から一週間後、ワーゲニンゲン大学が主催する Annual Introduction Days （AID）に参加しました。AID は新入生を対象としたオリエンテーションのようなもので、一週間を通してワーゲニンゲン大学とワーゲニンゲン市について学び、同学年の学生と親睦を深めるための様々なイベントが開催されました。AID を通じ、学期開始前に一年目の学修・研究計画を固めるとともに、生活基盤を整えることができました。




AID の期間を共に過ごしたグループ

2. 一学期目の活動

一学期目は、「Rethinking Economics for the Real World (RHI)」と「Introduction to Communication and Technology in Rural Innovation and Development (CPT)」という2つのコースを受講しました。一つ目のRHIは、主流派経済学(新古典派経済学)と異端派経済学(例:行動経済学、生態経済学、フェミニスト経済学)を比較し、現代の複雑な社会・環境課題に対して、後者がいかに新たな視点からアプローチしているかを分析しました。例えば、主流派経済学では、経済発展にほぼすべての焦点が当てられていましたが、生態経済学では、生物多様性や天然資源といった環境の側面に分析の重きが置かれています。現代の社会問題に適応した多様な経済学的視点を学ぶことで、現代の社会課題や解決策を批判的に分析し、実現可能かつ持続可能なアプローチを模索するために必要な知見を得ることができました。

二つ目のCPTは、発展途上国における持続可能な開発援助に関連する理論や手法を学びました。過去に見られる多くの援助プロジェクトでは、現地の人々を受動的な被支援者だとみなし、外部の技術や知識を一方的に押し付けるようなモデルが珍しくありませんでした。しかし、このように現地の人々の知識や経験、文化を無視することは、現地の課題を誤って定義し、不適切な介入を行ってしまうことに繋がります。本コースでは、現地の多様なアクターの関心や価値観、知識、経験を尊重し、彼らと協働することで初めて持続可能な解決策への糸口につながることを学びました。



通常授業(左)と学外での授業の様子(右)

また、これらの履修科目と並行して、オナーズプログラムへの参加にも挑戦しました。オナーズプログラムとは、本学唯一の学部横断型・選抜型プログラムで、社会実相を目指す課題解決プロジェクトからリーダーシップ講習まで、様々な面で活動を行うことができます。書類選考と面接を経て、無事選抜していただくことができました。現在は、自然界における水のサイクルをテーマとするプロジェクトのチームに所属し、指導教官とのミーティングなどを通じて少しずつ活動を進めているような状態です。自身のプログラム内では出

会うことのない、多様な学術的関心とバックグラウンドを持った学生と協働し、多角的な視点と興味を広げてまいります。



今年度のオナーズプログラムのメンバー

ワーゲニンゲン RC の活動では、9 月度の例会に参加させていただきました。開催場所の Hotel De Wereld は、第二次世界大戦の終盤にドイツ軍の降伏に関する会議とその調印が押された、歴史的に非常に意義深い場所です。第二次世界大戦において同じく重要な歴史を持つ広島から訪れた身として、この街で学ぶ意義を再確認する非常に貴重な機会となりました。例会では、20 分ほどお時間をいただき、自己紹介も兼ねたプレゼンテーションをさせていただきました。出身地の広島のことや自身のこれまでの学び・経験などを紹介させていただき、会員の皆様と更なる親睦を深めることができました。



例会前の夕食会（左）と例会の様子（右）

3. 二学期目（現在）の活動

現在の活動報告に移る前に、本学の学期システムに関して補足させていただきます。ここまで読んでくださった方の中には、渡航して 3 か月ですでに二学期目に突入していることに疑問を抱く方もいらっしゃるかもしれません。実は、本学では六学期制が採用されており、一学期はテスト期間も含めて約 2 か月で終了しました。各学期の期間は比較的短いですが、その分様々なコースを履修することができるため、個人的にはこのシステムを好んでいます。

二学期目には、上級計量経済学という必修のコースを履修しています。この科目は、経済学理論に特化した統計学のようなもので、実社会の経済的事象をデータ化し、そのデータを統計的に説明力のある形で分析する手法を学んでいます。私は、修士論文で計量経済学の手法を用いてアフリカにおける農業と気候変動に関する研究を行う予定なので、その研究に直結する知識を身に着けることができています。

ワーゲニンゲン RC では、アメリカのボストンから来たグローバル補助金奨学生のための歓迎夕食会が開催され、私もご招待していただきました。彼女は植物バイオテクノロジーという分野を学んでおり、次世代のための環境保全に強い関心を持っている方です。彼女の生い立ちや学術的な興味・関心について伺うことができ、同じ奨学生として私も自身の分野で学び抜こうと改めて決意することができました。RC メンバーの方々とも定期的に交流を重ね、さらに深い繋がりを築きたいと思います。